

“教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント

村山教育事務所

1 はじめに

村山管内の各学校では、“教育山形「さんさん」プラン”を生かしたきめ細かな指導を基盤とした授業づくりが行われ、一人ひとりの「確かな学力」の育成を目指した授業改善が推進されている。今年度は、中学校においても新学習指導要領が全面実施となり、各学校で「指導と評価の一体化」の実現を目指した授業づくりが行われた。また、コロナ禍だからこそ、学びを止めない様々な工夫が行われ、教育課程や学校研究の在り方についての見直しも図られた。

本プランを生かして学校教育の一層の充実を図るために、今年度も、村山教育事務所と管内各市町教育委員会による「教育山形『さんさん』プラン推進ワーキンググループ」を開催したところ、特に、「特別支援学級における学級編制基準の引き下げ」や「別室学習指導教員の配置」、「教育マイスター制度」についての成果が報告された。きめ細かな指導を基盤としながら、個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく実現するためには、「教員一人ひとりの資質・能力の向上」と「学校の組織力の向上」の両輪が鍵を握る。各学校の実態や課題に応じて、学校の主体性を生かした支援を行っていくことが重要である。

2 村山管内における実践から

(1) 各学校における「確かな学力」の育成を目指した「授業改善シート」の活用

令和3年度「確かな学力」を育成するための授業改善シート
児童生徒の「確かな学力」の育成を推進するために、目指す資質・能力を明確にし、以下の点を大切にしなが、日頃の授業づくりに取り組まばいよう。

「課題の設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連の探究活動のプロセスに、児童生徒が主体的・協働的に参加することを通して、知識・技能と学び方をバランスよく習得させながら、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を主体的に学習に取り組む態度を育成することを目的とします。

目指す資質・能力の育成につながる授業づくりのポイント

- ☆「学校として育成を目指す資質・能力」についての共通理解を図り、各教科等で育成を目指す資質・能力をより具体的に想定し、児童生徒と共有する。
- ☆単元を通して育成を目指す資質・能力に照らして評価規準を設定し、評価場面を精選して位置付けることにより、教師の指導改善と児童生徒の学習改善に生かす。
- ☆適に応じた学習課題や学習活動に取り組み機会（個別最適な学び）と、多様な他者と協働した探究的な学び合い（協働的な学び）を大切に、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。
- ☆教材・教員や学習ツールの一つとして ICT を積極的に活用することにより、必要な情報を取り出したり、分かりやすく整理したりするなどの情報活用能力を育む。

質の高い学びにつながる「課題の設定」

- 児童生徒が、自ら既習の内容を想起し、各教科特有の見方・考え方を働かせながら、見過しをもって取り組むことができる学習課題を設定する。
- 児童生徒の課題意識を醸成するために、生活や学習の中で自ら気付いたことや多様な「問い」を大切に学習課題を設定する。

思考の深まりにつながる「学び合いの充実」

- 児童生徒が、自ら目的をもって課題解決のための情報を集め、各教科特有の見方・考え方を働かせながら、互いの考えを関連付けたり、吟味・検討したりする学習過程の充実を図る。
- 学び合いの中に、自己選択や自己決定の場を位置付ける。
- 考えをより確かなものにするために、他者の考えを取り入れながら自分の考えを再構築したり、まとめたりする時間を保障する。

学びの自覚と次の学びにつながる「まとめ・振り返りの充実」

- 学習課題に即したまとめにおいて、児童生徒が、各教科特有の見方・考え方を働かせながら、自ら考えを表現することを大切にする。
- 児童生徒が、単元を通して自分の成長や変化を自覚することができるように、振り返りの場面を単元の中で意図的・計画的に設定する。
- 学んだことや気づきを次の学びや家庭学習につなげていくことができるように、児童生徒の振り返りを価値付ける。

村山教育事務所

山形県教育委員会「令和3年度学校教育指導の重点」と中教審答申「令和の日本型学校教育」を踏まえて、本事務所で作成している「授業改善シート」をリニューアルした。

各学校で育成を目指す資質・能力を明確にし、「確かな学力」の育成につながる授業改善の日常化を図るために、授業改善の柱となる「目指す資質・能力の育成につながる授業づくりのポイント」として以下の4点を示した。

- ☆育成を目指す資質・能力の共通理解と、より具体的な姿での児童生徒との共有
- ☆適切な評価規準の設定と、育成を目指す資質・能力を評価する場面の精選
- ☆バランスよく資質・能力を育むための「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- ☆情報活用能力を育むためのICTの積極的な活用

さらに、質の高い学びにつながる「課題の設定」、思考の深まりにつながる「学び合いの充実」、学びの自覚と次の学びにつながる「まとめ・振り返りの充実」の具体的な手立てを示し、目指す授業について共通理解を図った。

(2) 「組織力の向上」を目指した学力向上支援チームによる学校訪問



組織力を生かした学力向上の取組みを推進するために、管理職とともに「チェックリスト」を指標とした取組みの評価を行い、短期 P D C A サイクルを回すよさを実感してもらうことを大切にしました。また、改善点を明らかにし、学校課題に対してポジティブなスタンスで対策を練る・提案することを継続して行った。

(3) 「組織力の向上」と「指導力の向上」を支援する教育事務所研修の実施

学習指導力向上研修会

学習指導要領及び第 6 次山形県教育振興計画、「教育山形「さんさん」プラン」を受け、「ICT 活用の促進」「カリキュラム・マネジメントの推進」「学習評価の充実」を今年度の柱として年間 3 回の学習指導力向上研修会を実施し、組織力の向上を図った。

- * 第 1 回 ICT の積極的な活用による教育活動の充実(講義)
- * 第 2 回 目指す資質・能力の育成につながるカリキュラム・マネジメントの充実(講義)
「確かな学力の育成」に直結するアクションプランの作成・更新(演習)
- * 第 3 回 主体的・対話的で深い学びと学習評価(講演)

ネットワーク型研修会

7 つの部会を開設し、年間を通して各部会のテーマに沿った研修を行った。年度末には、各部会の研修の成果を全ての研修部員で共有して学びを深め、指導力の向上を図った。

部会	テーマ	育成を目指す資質・能力
国語	伸ばしたい力を子供と共有し、子供自身が試行錯誤を楽しめる単元づくり ～学びの実感につながる言語活動の充実～	複数の情報を関連づけて考えを形成し、表現したりまとめたりする力
社会	児童生徒の気付きや疑問を生かした単元を貫く課題の設定と単元構想の工夫	複数の資料から情報を適切に調べ、まとめる力
理科	「見いだした関係性や傾向から、課題を設定する力」の育成 ～理科の見方・考え方を働かせることができる単元づくり～	見出した関係性や傾向から、課題を設定する力
外国語	みんなが楽しめる授業づくり ～伝えたい気持ち、伝わった喜びを大切に～	既習表現を活用して、自分の思いを伝える力
生活・総合	体験活動を通して、子供の気付きや学びを引き出す授業づくり	探究することのよさを理解しながら、学びに向かう力 学習の基盤となる言語能力
インクルーシブ教育	一人一人の実態に応じたオーダーメイドの支援 ～自立活動の充実を通して～	児童生徒理解の力、学習を組み立てる力 関わり合いをコーディネートする力
カリ・マネ	資質・能力が身に付いたかどうかについてのカリ・マネ評価の在り方	学びに向かう力・人間性等 (問題発見・問題解決)

3 おわりに

「各学校で育成を目指す資質・能力」を明確にし、全ての教員で共通理解を図って、日常的に授業改善に取り組んでいる学校が増えている。具体的な目指す姿を子供と共有し、子供の姿での検証を大切にされた学校組織の構築を支援し、「確かな学力」の育成を実現していきたい。

“教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント

最上教育事務所

1 はじめに

最上教育事務所では、授業改善のポイントとして「授業のレベルアップに向けて」を作成し、各学校へ配布している。このこともあって最上地区では、探究的な過程を意識した授業が重視され、特に導入、展開、終末の在り方を校内研究テーマの重点に掲げて日常の授業改善を進めている学校が多くなってきている。

授業では、教師が“教育山形「さんさん」プランによる少人数の利点を生かし、児童生徒主体のペアやグループ学習における対話を通して深い学びを目指した授業づくりが進められている。

また、最上教育事務所としてモデル単元を開発する「もがみ授業改善研修『プロジェクトM』」や、授業づくりのポイントを確認する「学習指導力向上研修会」等を通じて、各学校における授業づくりを支援している。

授業のレベルアップに向けて



2 最上管内の実践から

(1) もがみ授業改善研修「プロジェクトM」

算数・数学、英語の3教科で、プロジェクトメンバーの教員による探究型学習をイメージしたモデル単元の開発と公開授業を行っていただいた。メンバーは、自主的に指導案検討会を重ね、「説明する力を育成する授業づくり(算数・数学)」や、「コミュニケーション能力を育成する授業づくり(英語)」をテーマに掲げ、協働しながら真摯に研修に取り組んだ。

新庄市立日新小学校 第4学年 算数科 単元名「重さとたんのいのはかり方」

☆課題の吟味

- 日常生活とつながりのある教材(ランドセルの重さ)を扱ったことで、意欲的に向かうとともに、実生活の気付きから出た問いをもとに、自然に自分事となる課題が生まれていた。

導入で具体物を操作することで、課題把握の時間が短縮され、児童が思考する時間を十分に確保することにつながっていた。



☆「見方・考え方」を働かせる問いの設定

- 「単位がkgとgで違う時、計算はどうしようか？」と問うことで、これまでの長さやかさなどの既習内容と“関連付け”たり、各グループの思考を“比較”したりして課題を解決しようとする児童の姿が見られた。また、説明するために線分図を使い、思考を可視化することで、自分の伝えたいことを整理して表現することができていた。

交流の場面では、ホワイトボードを活用し、グループの中でそれぞれの考えを示しながら、整理する姿が見られた。



授業アイデア例

(2) 学習指導力向上研修会

10月5日(火)に、各学校の研究主任の先生方を対象に実施した。初めに、「全国学力学習状況調査」の結果分析と対応について説明し、地区全体及び県の成果と課題を共有した上で、さらに課題解決のために必要なことを確認した。

その後、国立教育政策研究所が作成した「使ってみよう学力調査(算数・数学)」(令和2年10月)を使い、小・中学校それぞれのグループに分かれて演習を行った。冊子に掲載されている授業アイデア例に示された授業の流れから、見方・考え方を働かせている場面に注目し、授業のめあて(ねらい・目標)と課題について、「より具体的にする」をテーマに検討を行った。めあての曖昧な表現を具体化する演習を通して、授業のポイントや付けたい資質・能力が明確になることを確認した。



(3) 授業アイデア例

「立体図形の構成要素に着目して長さを求めるよう」 ～図形と式とを関連付け、説明する～	(実施対象学年) 第5学年
【指導のねらい】 図形の辺の長さを求める際に、立体図形の構成要素に着目して、求め方を式に表したり、式の意味を解釈したりすることを通して、角柱や円柱についての理解を深めることができるようにする。	
① 柱体の面の個数や形を捉える。	
いろいろな形の柱体の動き立てがおすすめです。 隅りに角柱をばって、まっすぐに組み立ててほしい。 どのような形の柱を何枚用意すればよいでしょうか。 組み立ては、それぞれ四角柱、三角柱、円柱として考えることができますね。	

協議の様子

<授業アイデア例 めあて>

図形の辺の長さを求める際に、立体図形の構成要素に着目して、求め方を式に表したり、式の意味を解釈したりすることを通して、角柱や円柱についての理解を深めることができるようにする。

<グループで考えた めあて>

図形の辺の長さを求めるために、面の個数や形に着目し、側面を2つの大きな長方形として見ることができる。
※複数時間分のめあてを1時間分で考えています。

目標が具体化されると、授業の「勘所」につながる問い返しも見えてくる。

もう少し、具体的にできないかな？



<グループで考えた 課題>

できるだけ少ない紙の枚数で、側面を作るにはどうしたらいいだろう。

子どもの視点に立ち、ねらいを達成するための課題になるように吟味する。

研修を通じて、参加者は目標を具体的にすることの大切さに気付くことができた。「何をさせて、どのような姿を求めていくか」という視点で授業を構成していくことが、子供たち一人ひとりの資質・能力の育成につながることを期待したい。

3 おわりに

「主体的で対話的で深い学び」を実現するには、「さんさん」プランを活用し、一人ひとりの学びをしっかりと見取ることが重要である。そのためにも、授業のポイントを確実に抑え、具体的な授業のねらいをもとに授業構想・実践していく必要性を強く感じている。このことを踏まえ、付けたい資質・能力の到達度をもとに授業改善していく「指導と評価の一体化」を目指していきたいと考えている。

“教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント

置賜教育事務所

1 はじめに

平成 14 年度から実施の“教育山形「さんさん」プラン”。このプランの下支えを基に、管内の各学校においては、習得・活用・探究のバランスのよい確かな学びを大切にしながら授業改善が進んでいる。

特に今年度は、「教科特有の見方・考え方を働かせる授業」「小中の連携や系統性を大事にした授業構想」「学びを自覚させ、主体的な学びにつなげる振り返り」について意識して授業改善に取り組む学校が増えていることが大きな成果といえる。

以下、学校訪問から見られた教育マイスターを中心とした取り組みや事務所での取り組みから、実践の様子や成果について紹介する。

2 置賜管内における実践から

(1) マイスター配置校の取り組み

【米沢市立東部小学校】

日常的・実践的・継続的な校内 OJT の充実及び授業改善の実践

東部小学校では、組織的な OJT システムが確立されている。ここでは、特にマイスターを中心とした OJT について紹介する。

1 組織で行う OJT

- (1) 教務主任を中心に・・・校内 OJT (『若手塾』『校内地留学』)
- (2) 学年主任を中心に・・・学年会で OJT (『技術伝達』)
- (3) 研究主任を中心に・・・終会後に OJT (『実践紹介』)
- (4) マイスターを中心に・・・対象教員へ OJT (『授業改善』)

2 マイスターを中心とした OJT の実践

- (1) 対象教員育成のための
アクションプランの作成

- (2) STDC の取り組み

Show・・・やってみせる

Tell・・・説明する

Do・・・やってもらう

Check・・・確認・追加指導

- (3) コーディネート

①校内での授業交流をコーディネート

②マイスターだよりでの校内研修、校外研修の学びを共有

③校外研修の内容を取り入れた示範授業

- (4) 学習指導部との連携

①学力テストの分析・活用

○それぞれの組織に応じて「いつ・誰に・どんな力をつけるために・何をするのか」が明確になっているため、日常的・実践的・継続的な OJT が確かな実践として積み上げられている。

①アクションプランの作成	
→対象教員への継続した授業参観	
一学期の取り組みに対する評価と振り返り。	
カウンセリングを行い、二学期の目標と方法を考える。	
実施中、個人の課題に合わせて随時を図る。	

(2) 事務所の取組み

- 「考える力を育む授業づくり研究会」及び「学習指導研究会」での実践
今年度は国語、算数・数学、理科の3教科で、「付きたい力を明確にした教科特有の見方・考え方を働かせる授業」とはどのようなものか、その具体を示した。

<国語> (中学校第1学年で実施)

単元名 根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く
～中学生 生活向上レポートを作ろう！～

働かせたい見方・考え方

◆根拠を明確にするために、事実や情報を比較、分類、関連付ける。

ICTの活用：PCを使ったアンケートの実施と集計、アンケートによって得られたデータの整理や図表作成、レポート作成、参考文献の検索等

- 根拠を明確に示すために、生徒自身が検証でき推敲するための観点を示すことで、主体的に学ぶ生徒の姿につながった。また、自分の考えや他者の考えを比較して考えを広げたり深めたりする姿が見られた。本単元ではPCを使ってレポートを作成した。記述や推敲といった「書く」領域においてもICTの活用は効果的であるので、そのよさをいかして積極的に活用したい。

<算数・数学> (中学校第2学年で実施)

単元名 図形の調べ方

働かせたい見方・考え方

◆根拠となる事柄に着目し、図形の性質等を論理的に考察する。

◆説明等の過程に着目し、新たにわかる事柄や性質等を考察する。

ICTの活用：ICT端末による評価問題

- 一時間ごとや単元末に「付きたい力が付いているか」を評価問題等で適切に見取る授業の具体を示すことが出来た。レディネステストや評価問題等で生徒の実態を把握し指導に生かしたり、働かせたい見方・考え方を意識して授業展開を工夫したりしたことは、生徒に付きたい力を付けるうえで有効だった。

<理科> (小学校第4学年で実施)

単元名 電流の働き

働かせたい見方・考え方

◆問題解決の過程を通して、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する。

ICTの活用：学習支援アプリ「ミライシード」とタブレットのカメラ機能を活用したワークシートの提示等

- 既習の電流の向きや電池を扱う生活経験の知識を基に、根拠をもって予想を立てる児童の姿が見られた。根拠をもって予想をする時間を十分に取ることで、自分なりの視点を持って実験に臨む主体的な姿につながった。

3 おわりに

上記の取組みにおいて、三教科とも「根拠を基に、自分の考えを説明する力」があげられた。教科を越えて、子供たちに付けなければならない力が明確になったと言える。この力を含め学習指導要領が目指す力を育成するためにも、「さんさん」プランの目指す一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導を生かし、教育事務所・各市町教育委員会・各学校が一丸となって、学力向上に向かって歩みを進めていきたい。

“教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント

庄内教育事務所

1 はじめに

コロナ禍により様々な自粛が求められ、研修会等においてもリモート化が定着してきている。学校においても「そもそも学校は何のためにあるのか」という存在意義を改めて見つめ直すことを余儀なくされた年であった。

そのような中でも、各校においては「さんさん」プランによる少人数指導の利点を生かしながら、力強くかつ丁寧に実践を積み重ねている。本プランのねらいである「個に応じたきめ細かな指導の充実」、「わかる授業、楽しい学校を目指す」ことの大切さが再認識され、管内市町教育委員会と教育事務所で共同作成した『授業改善2021』をもとに、目指す方向性を一つにしながら、学校として育成したい資質・能力を明確にした組織的な取り組みが進められている。



2 庄内管内における実践から

(1) “教育山形「さんさん」プラン”に係る非常勤講師研修会の実施

庄内では“教育山形「さんさん」プラン”に係る非常勤講師の先生方を対象に、それぞれの非常勤講師の配置の意図に沿って、少人数指導のあり方や児童生徒理解等についての研修を深め、個々の資質の向上を図ることをねらいとして研修会を実施している。



今年度は、TT指導や個別指導等で子どもたち

の指導に携わる先生方を対象に、GIGAスクール構想についてICTを活用した実践事例を紹介しながら研修を行った。さらに、今年度の全国学力・学習状況調査について管内の結果を分析し、誤答から授業改善のポイントを見出す研修を実施した。

また、別室登校学習指導に関わる先生方を対象に、教育相談員・S・S・W研修会と兼ねて行い、これまでの具体的な事例を持ち寄り、それぞれの実践における成果や課題を共有しながら、今後の児童生徒との関わり方や指導のあり方について情報交換を行った。今後も生徒一人ひとりに寄り添い、きめ細かな指導を充実させていくために本研修会を大切にしていきたい。

(2) 「学校研究ワンアップ研修会」の実施

本研修会は主に管内の研究主任を対象としており、今年で4年目を迎えている。例年3回シリーズで実施しており、約70名の参加のもと、熱意に満ちた研修会となっている。

今年度、第1回目の研修会はコロナ禍のため開催できなかったが、第2回目の研修会は「ベーシック探究コース」「カリキュラム・マネジメント探究コース」「ICT活用探究コース」の3つのコースの中から、先生方が選択して参加するという形で実施した。

どのコースでも話題になったことは、「目の前の子どもたちの実態を的確に捉え、子どもたちに付けたい力は何かを自校で明確にし、目指すゴールを共有することが大切」ということであった。

【第2回研修】参加者の声より

【ベーシック探究コース】

初めて研究主任になり不安だったが、いろいろな実践を聞くことができ、とても参考になった。事後研の持ち方について悩んでいたが、うまくいかなかった点について「阻害要因を考えることが大事」というヒントをもらった。これからも学校研究を盛り上げようというパワーをもらった研修会だった。



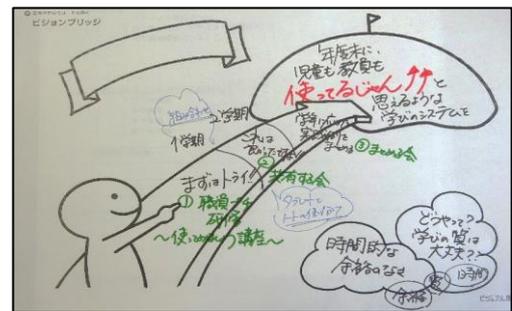
【カリキュラム・マネジメント探究コース】

本校では学校教育目標を受け、学校として育成したい資質・能力を設定し、カリマネ表を学校教育活動全体に生かすことができていると考えていたが、改めて見直すと評価の項目や振り返りの時間などに課題が見えてきた。校内で共有し、今後改善を図っていききたい。



【ICT活用探究コース】

どのようにICTを使うかという点について、再度校内で検討し発信していきたいと思った。特に授業における端末の活用について「教科の目標を達成する上で効果的かどうか」という視点で、どの場面でどのように使っていくのかを考えていきたい。



第3回目の研修会はオンラインで開催し、山形大学大学院教育実践研究科の高野浩男准教授より「主体的・対話的で深い学び（授業改善）を実現するためには？」というテーマで講話をいただいた。講話では「カリマネと校内研の進め方の工夫改善」や「カリマネに取り組む学校では何を共有しているか」などの視点で、県内のカリキュラム・マネジメントの事例を具体的に紹介していただいた。参加者は自校の研究を振り返ったり、今後に向けて改善のポイントにしたりと有意義な研修となった。

【第3回研修】参加者の声より

先進校の取組みを参考にさせていただきながら、本校の研究課題に照らし合わせてカリマネ表を改善していきたい。共有・協同的につくる時間をしっかりと確保し、共に創るスタンスを大事にしていきたい。

本校で作成しているカリマネ表が間違っていないと実感した。ただ、それをどのように授業改善に生かし、価値付けしていくかという点に課題が残るので、見直しの時間を十分に確保しながら職員で共有していきたい。

3 おわりに

本プランを基盤とした授業改善をより推進していくために、「学校として育成を目指す資質・能力」を明確にし、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことが重要である。今後も庄内の学力向上に向け、各校の取組みのよさを積極的に発信しながら力強く進めていきたい。